

活動の記録

4月18日(日) 快晴

抜けるような青空の下、輝く新緑の中でヤマガラウのさえずりをバックコーラスに聞きながら総会が開かれました。各議案についてフリートークを交えながら和やかに審議され、全件承認されました。

役員の変更により福島さんに事務局長兼副代表をお願いし、伊藤さんは会計と助成金等の渉外対応に専念されます。新井さん成沢さんが新任の幹事に加わりましたのでよろしくお願いします。

新年度に当たり先ず思うのは安全第一でなければならない事です。狭い島内とは言え急斜面や崖がありますし、いろいろな刃物を使っての林内作業ですから常に緊張感が必要です。

次に会員の皆さんが県内各地から時間をかけて活動に参加されている訳ですから、それに見合う物を得て欲しいと思います。島内での森林浴だけで満足の方もおられるでしょうが、各自が興味のあるテーマを持って観察や調査、実験などのフィールドとして活用できます。また島外には自由に使える耕作放棄田もあります。害獣が多いので活用は難しい現状ですが、何かアイデアがあれば試してみるのも良いと思います。安全に楽しくをモットーにやってゆきましょう。(坂本)



新緑の豊英島に渡る



新緑の中で集合写真

参加者は、秋元、新井、伊藤、及川、大原、苅米、久我夫妻、坂本、田島、福島の11名でした。

〇年次総会

2021年度の年次総会は、4月18日(日)君津市豊英島において、11名の会員参加で開催されました。

第1号議案～第5号議案まですべて可決されましたが、2021年度活動方針については2会員から意見があり、議案書(確定版)で記載内容に反映することとなりました。

また、役員改選(1年任期)については、坂本代表(留任)、福島事務局長(新任)が選出され、新たな体制で臨むことになりました。

今年度も新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、柔軟に活動を実施することを確認しました。(伊藤)

〇コナラ伐採地の刈り出し(その3)

1月から継続的に実施している刈り出し作業ですが、残された部分を及川、大原、伊藤の3人で実施しました。残す樹木にはすべて印がついていますが、新緑の時期になり新芽が吹き花まで咲いていると、鋸を持つ手がつい止まってしまう。

ヤブ刈り作業なので冬向きの作業だと2月号でコメントしましたが、今回余計にその感を強くもちました。なんだか今一つ乗り切れず短時間で作業を切り上げてしまい、来月以降に作業を残してしまいました。実施工事はすっきりして、樹木観察には最適です。(伊藤)

○昆虫等観察記録

青空総会で座っていると、強い風に飛ばされたのか、次から次に机の上に虫がやってきました。今日は虫を探しに行かなくても、虫の方からやってきてくれそうです。この季節は、芋虫毛虫が多い！虫に対して防衛手段を持っている新芽を、芋虫毛虫たちはモリモリ食べています。ただ、ほとんどの芋虫毛虫の名前はわからず、残念。森を歩いていると、触覚を手のように大きく広げたクチクシヒゲムシのオスが、幹にいました。ドキドキして、あわててカメラをかまえると、ブーンと飛んで行ってしまいなんと悔しいこと！この森ではメスを見かけたことはあるのですが、触覚の立派なオスは見たことがなく、またの機会を楽しみに待ちたいと思います。



ナミアゲハ



ミヤマセセリ



オオミズアオ

保護柵内にナミアゲハがいました。ナミアゲハは街中でも見られるチョウですが、ここで見たのは初めてです。ミカンの仲間の木はあるのでしょうか。春にだけ見られるミヤマセセリを、今年も見ることができました。もう翅が大分傷んでおり、色も褪せていました。青白色の大型の蛾、オオミズアオはうっとりするほどの美しさで、しばらく見入ってしまいました。今日は多くの虫が見られ、豊かな森を実感した一日でした。

(他に観察された昆虫) イシノミの一種、ホソミオツネトンボ、シオヤトンボ、モリチャバネゴキブリ幼虫、クビキリギス、ツチイナゴ、チャバネアオカメムシ、ウシカメムシ、アカスジオオカスミカメ幼虫、アカサシガメ、コミミズク、ツマグロオオヨコバイ、ヒメカゲロウの一種、ヒメリンゴカミキリ、ヒメクロオトシブミ、アカコブコブソウムシ、カオジロヒゲナガソウムシ、カシワクチフトソウムシ、キバネマルノミハムシ、ルリマルノミハムシ、ツツジコブハムシ、クビボソジョウカイの一種、マルムネジョウカイ、コクロヒメテントウ、センチコガネ、フジナガハムシダマシ、ホソアトキリゴミムシ、ピロウドナガクチキムシ、モンズズメバチ、キボシアシナガバチ、コマルハナバチ、トゲアリ、ヤマトシリアゲ、ナミハナアブ、マガリケムシヒキ、クロフトモモホソバエ、キタキチョウ、ルリタテハ、ウスベニヒゲナガ？、スカシコケガ、ホタルガ幼虫、オオトビモンシャチホコ幼虫、マイマイガ幼虫、ヒョウモンエダシャク幼虫、チャバネフユエダシャク幼虫、ウスバフユシャク幼虫、ヒモミノガの一種幼虫、ヒロバトガリエダシャク幼虫

(観察されたクモ) クサグモ、ゴミグモ、ギンメッキゴミグモ、オナガグモ、アズマキシダグモ、コハナグモ、ユノハマサラグモ、ウロコアシナガグモ、イボカニグモ、アサヒエビグモ、デーニツツハエトリ、ネコハエトリ、マミジロハエトリ、チャイロアサヒハエトリ、アオオビハエトリ (田島)

○島は花盛り

吊橋を渡り始めてすぐにマルバアオダモ、コバノガマズミの真っ白な花に目が止まりました。木々の若葉は出始めのため、樹冠が狭く青空が大きく広がって、明るい日差しが地面いっぱいには届いていました。例年になくエビネがあちこちに群落を形成し、赤っぽいエビネや白っぽいエビネがあり色合いの変化も楽しめました。禁断の岬に続く南側の散策路にはフモトスミレのかたまりがあり白っぽい花が数輪咲いていました。

今回のハイライトはヒカゲツツジです。このヒカゲツツジは禁断の岬の崖にあると聞いていました。脚力に自信をつけた新井さんと足場の悪い島の北側斜面に向かいましたが結局見つけられず福島さんの案内でやっと撮影できました。見頃は過ぎていましたが三輪ありました。台風で倒れた大木が尾根の細道を塞いでいたのでこれを越えるのに一苦労しました。この場所へのアプローチは尾根道と崖下道の二通りありますがどちらもより一層危険度を増しました。名前の通り禁断の岬になったようです。

千年広場西側のツチアケビは5株あり、落葉を押しつけて5cmほどの高さになっていました。食害を避けるために金網を設置しておきました。

今回確認できた花・蕾は、マルバアオダモ、コバノガマズミ、ヒカゲツツジ、ウワミズザクラ、ヤマブキ、ツクバネウツギ、フモトスミレ、エビネ、シュンラン、ナルコユリ、チゴユリ、フデリンドウ、ミツバツチグリ、キランソウ、ツチアケビ、ニガイチゴです。(秋元)



マルバアオダモ



コバノガマズミ



フモトスミレ



ツチアケビ



ヒカゲツツジ



エビネ(坂本)



ツクバネウツギ(坂本)



ミツバツチグリ(坂本)



ヒメウツギ(福島)



フデリンドウ(坂本)



チゴユリ(坂本)

○季節外れのナラタケ

千年広場のコナラの切り株に黄色味を帯びたキノコが束になって生えていました。こんな時期に出てくる黄色のキノコならニガクリタケと相場が決まっていますが、傘の裏を見ると様子が変わります。茎を見るとナラタケの特徴的なつばがありました。季節外れのこの時期にナラタケに出会えるとは！びっくり！です。（坂本）



ナラタケ



カナヘビ



トビの抱卵

○カナヘビとトビの抱卵

カナヘビが林床をちょこちょこ動き回っていました。昨年営巣した場所で、今年もトビが抱卵していました。（福島）

○ヤマカガシとの遭遇

禁断の岬に秋元さんとヒカゲツツジなど確認に行く途中、70 cm程の大型のヤマカガシに遭遇しました。前後に立ってしまったせいか、体長の1/3位立ち上げて鎌首をもたげ胸幅を広げたような様子はコブラを彷彿させました。（ヤマカガシは奥歯に強毒性のある臆病なヘビとのこと、興奮させてしまってください）（新井通子）



ヤマカガシ(秋元)

○ナラ枯れ被害調査（その2）

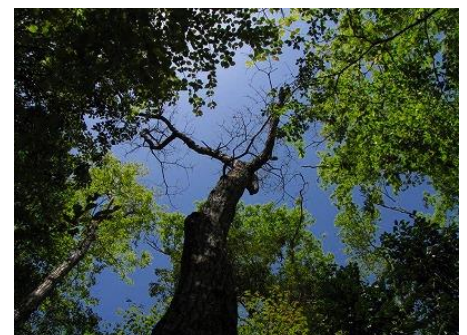
昨年8月、島内のコナラへのカシノナガキクイムシ（以下、カシナガと呼ぶ）による穿入状況について調査を行いました（2020年8月24日発行の千年の森便り205号参照）。今回は、その時に調査した穿入木が、その後、枯死したかどうかを確認するための調査を行いました。

昨年8月にカシナガが穿入しフラスが出ていた44個体のうち、19個体（43%）については開葉が見られずに枯死し、残りの25個体（57%）は開葉していました。枯死した19個体は、昨年8月の時点ですでに全体またはほとんどの葉が枯れていた個体でした。また、開葉した25個体のうち24個体は昨年8月の時点で葉が展開していた個体でした。なお、開葉した25個体の中には、複数の幹のうち一部の幹が枯死したもの、葉量が少ないものなど、樹勢が衰えている個体も含まれています。

今回の調査から、8月頃にほとんどの葉が枯れた個体については、翌年に再び開葉する可能性は低く、反対に、穿入されてフラスが出ていても葉を展開している個体は、翌年も開葉する可能性があることが



ナラ枯れ被害調査



ナラ枯れにより枯死したコナラ

わかりました。

ナラ枯れ被害対策マニュアル（日本森林技術協会）では、「カシナガに穿入されても、枯死しないナラ類は、その後数年にわたって穿入を受けても枯死しないことが多く、カシナガの繁殖が困難なことから、そのまま残しておいた方がカシナガの個体数の低下につながる」との記事もあり、今回の調査結果はこのような個体を判断するためのヒントになると思われます。（福島）

○センサーカメラ撮影記録（2月21日から4月18日までの57日間）

ニホンジカは昼夜を問わず記録されています。不明種としている数種類の動物は夜間のみ記録されています。夜間の撮影はモノクロ画像となり、同定が難しく不明種として取り扱っています。

前回複数で行動していた種はニホンジカだけでしたが、今回はハクビシン2頭一組と一緒に行動している姿がありました。

CAM 1：ニホンジカ2回、ニホンリス1回、キジ（メス）2回、カケス2回、アライグマ2回、ハクビシン1回、不明種51回

CAM 2：ニホンジカ27回、ハシブトガラス？1回、ハクビシン1回、不明種16回（秋元）

動画は Youtube チャンネル「ちば千年の森をつくる会」をご覧ください。

○日本水仙球根の植え付け。

島入り口の田圃に水仙の球根を植える予定でしたが、田圃は一面水溜りになっていました。その横の駐車場端と通路脇（約50m）に水仙球根1,000個程を坂本さん、大原さんの応援を得て植えつけました。

この球根は家内（則子）が、家の近くの空き地で育てたものです。来春には、多くの水仙が咲き誇って、美しい景観になる事を期待しています。（久我）

○物置テーブルの撤去他

広場に竹製の物置テーブルが設置されていましたが、長年（10年？）経過したので各箇所破損しているところが出来ました。苅米さんご指導の下、このテーブルを撤去しました。次回の活動日に材料を揃えて設置する予定です。同時に竹製のシート骨組みも撤去しました。この骨組みは、元工作班の方々が丹精を込めて作られたものです。雨天時や真夏の昼食時などには、シートを張って、多くの会員が集うことが出来ました。しかし、長年経過した現在、竹材の腐朽が激しく、支柱が倒れそうになっています。これも全て撤去しました。現在の寸法を測定したので、次回の活動日から建設に取り掛かりたいと思います。（久我）

○豊英島二次自然植生再生へのアプローチ

既存の一定の面積（場所）を保護柵で囲う植生保護方法に加え、新たにその植物に対するシカの嗜好性レベルをキーに、絶滅危惧性の高い植物を優先して救済する植栽保護活動を開始した。

1.新活動のミッション

その植物に対するシカの嗜好性レベルをキーに絶滅危惧性の高さを優先度として、災害時救助の際のトリアージの手法を導入することで、可能な限り多くの豊英島に自生する系統植物種を救済・再生する。

2.新活動のビジョン

トキ保護センターのビジョンに倣い、①より絶滅危惧性の高い種の母樹から挿し木により一定量の苗木を作成（繁殖）、②植物保護エリア（シカ・ウサギの食害防止用ネットで囲った保護区：写真3）内でシカの食害が致命傷とならないとされる樹高180cm～200cmまで育成（育成・訓練）、③植物保護エリアから出し、適地に定植（自生復帰）を繰り返すことで、最小限の広さの保護エリアでの最大数の植物種の救済・再生を実現する。

3.経緯

- ① シカの侵入の指標とされ最も嗜好性の高い樹種の一つであるアオキを初回救済・保護対象に選び、2019年3月挿し木による繁殖を実施。挿し穂10本のうち5本が発根。2021年4月現在樹高15cm（写真1）に生長。
- ② 苗木が確保できたことから、2020年3月から植物保護エリアの設営を開始。ほぼ絶滅状態のアオキに再度の挿し木繁殖の機会はないと思われるので、リスクヘッジのためエリアを2カ所に分散した。2021年3月、設置完了。
- ③ 完成した植物保護エリアにアオキの苗木を植え付け、植物保護エリアの運用を開始。（写真2）

4.課題

シカの嗜好性レベル毎に分けられた植物リストを探したが、千葉県内のどの部署も調査・所有しておらず、唯一見つけた兵庫県のデータは植生の地域差から利用に耐えなかった。

可能な限りの豊英島の植生に関する情報を収集、その時系列変化から嗜好性レベルを仮定せざるを得ない。（及川）



写真1 アオキの苗木4兄弟 樹高15cm



写真2 苗木の植え付け状態



写真3 植物保護エリア全景

お知らせ

○次回活動日は5月16日（日）です。

午前中は、清和県民の森を散策し、午後は豊英島でそれぞれのテーマに沿った活動となります。例年のような公開行事とはしませんが、ご家族、友人等を誘っての参加歓迎です。

散策コースは2コースで、木のふるさと館（駐車場）からサイクリングコース終点まで平坦な道を往復する初心者向きコースと、途中から尾根筋に上がって一回りして出発点に戻るやや健脚向けコースです。どちらのコースも初夏の清和県民の森をたっぷり楽しむことは間違いありません。

9時30分に清和県民の森木のふるさと館（駐車場）集合です。

○今年度の活動日程

「21年度活動計画議案書」5頁の活動日程の通りです。